

問題です! 日本の精神疾患患者は何人ぐらいいるのでしょうか?

A 約80万人 B 約400万人 C 約620万人 ※答えは、このページのどこかにあります!
この精神疾患の患者さんを支えている職種のひとつとして、精神保健福祉士が居ます!

精神保健福祉士「精神科ソーシャルワーカー(PSW)」とは?

精神保健福祉士の主な仕事は、精神的な障がいのある方やその家族、メンタルヘルスの課題をかかえる人を支えることです。精神障がいのある方が抱える生活問題や社会問題の解決のための助言や、社会参加に向けての支援活動を通して、その人らしいライフスタイルの獲得を目指しています。資格を持っていないと名乗る事ができない名称独占の国家資格です。

どんなところで働いているの?

医療機関(病院 クリニック) 福祉施設(相談支援事業所 グループホーム 就労支援施設 自立訓練施設) 行政機関(市役所 保健所 福祉事務所 保健センター) 司法施設(保護観察所 矯正施設) その他(ハローワーク、学校、企業など)で働いています。



どんな仕事をしているの?

病院では、入院から退院までの相談に応じ、各種手続きなども行います。家族や各種関係機関との連絡調整などを行い、社会参加ができるように目指します。病院以外では、地域生活を支援するための相談支援や生活訓練、就労支援などを行ったり、精神保健センターや保健所などでは、市民のメンタルヘルス啓発活動などにも携わっています。その他、生活保護などの申請、アパート探し、買い物支援など、多岐にわたっています。

問題の答え・・・B! 精神疾患患者は、392万人(H.26厚生労働省調べ)です。
記 はばたき

群馬県精神障害者援護寮「はばたき」 指定管理者 社会福祉法人アルカディア

群馬県伊勢崎市国定町2丁目2400-1 TEL:0270(63)1860 FAX:0270(63)1861

(空き情報) 入居:随時見学を受け付けております。待機者については順次ご案内をさせていただきます。

お時間を頂く事になってしまいますが、ご相談・お問合せは随時お受けしております。

(通所) **空が5名分あります。**

太田市地域活動支援センターⅠ型 ふらっと ふらっと相談支援事業所

アルカディア ニュースレター委員会 本部

群馬県太田市鶴生田町733-123 TEL:0276(20)2509 FAX:0276(20)2510

地域活動支援センターⅢ型 耕人舎

群馬県太田市鶴生田町733-123 TEL/FAX:0276(60)5074

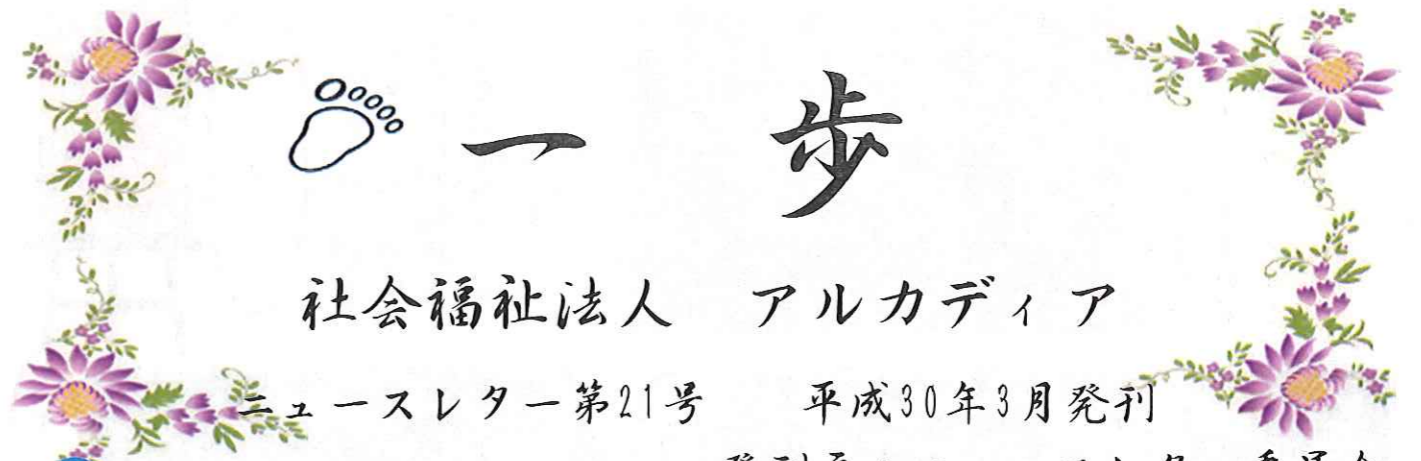
グループホーム事業所

群馬県太田市大島町386-3 TEL/FAX:0276(25)3500

太田市障がい者相談支援センター

群馬県太田市浜町2-35(太田市役所内) TEL:0276(57)8210

ニュースレター及び法人情報につきましては、<http://arcadia-gr.com/> でもご覧いただけます。



社会福祉法人 アルカディア

ニュースレター第21号

平成30年3月発行

発行元: ニュースレター委員会

元 気 屋 特 集

地域に根ざした
いやしの空間

平成29年7月に『元気屋』が開店して、早くも8ヶ月が過ぎました。当初は期待もありましたが、それと同じくらい不安がありました。「食事作りは本当に大丈夫だろうか。正直、自信がない...。お客様は来てくれるだろうか...。そんなことばかりが頭の中を駆け巡る日々。私らしくないと思うこともありました。

7月2日、開店日。大勢の皆さまに来ていただきました。そこには笑顔があり、会話が溢れていました。とても良い時間が流れていきました。たまたま感じたことは、元気屋は働いてくれているメンバーさんや地域住民の方と共に話し合い、考えながら『どんなお店に、どんな居場所にしていくか』を決めていくことが元気屋のやり方なんだということでした。

誰でも気軽に話せる場

元気屋開店から日を追うごとに、徐々にお客様の客層が増えていきました。今でも足しげく通ってくれる地域住民の方、仕事のお昼休憩で立ち寄り寄ってくださる方、当事者の方やそのご家族の方。少しずつこの地域に根づいてきています。メンバーさんと共に実感しています。その日々の中で、働いているメンバーさんや当事者の方に『元気屋では誰でも気軽に話せる場所というところを知ってほしい』と思うようになってきました。



望んでいる方もいます。何かいい方法はないかと考えていますが、そのきっかけは元気屋での会話から始まりました。いつもは食事だけをする地域住民の方々からメンバーさんへの声掛けがあり、自然と会話が生まれ、そこから他の席に座っている方も一緒に会話をします。日々の暮らしではあまり感じないことかもしれませんが、そこには様々な壁がない場がありました。

これから先、コミュニケーションの場として、居心地の良い店として、この地域にある元気屋を、多くの人に利用してもらいたいと考えています。

耕人舎ニュース

今年4月より耕人舎の管理者に着任する音村です。

耕人舎の今まで利用者は、障がいのある方が中心でしたが、今後は他の障がいのある方も利用しやすい活動の場を目指して変化を進めていきます。

『利用者が主役』の活動をお手伝いさせてもらう。そんな施設になっただけでいいから、スタッフ一同取り組んでいきますので、どうぞよろしくお願い致します。

高齢化による変化

日本の高齢化の状況について、平成29年版高齢社会白書によると、総人口1億2693万人(平成28年10月)、総人口に占める65歳以上の割合(高齢化率)は27.3%となり、超高齢化社会(65歳以上の人口21%以上)を迎えている。

高齢化社会による社会構造の変化が求められ、さまざまな対策が政府や関係部所により講じられているが、具体的な成果が出てくるのは、まだまだ先かもしれない。

地域福祉の中でも、高齢化による変化を感じる場面が増え、アルカディアとしても、今後どのように対応し、支援に結びつけていくべきかを考えている。

「高齢化について」ということで、ホーム利用者の平均年齢について調べてみた。法人運営のグループホームは現在13か所で定員は5名から8名がほとんどである。その中で、平均年齢はAホーム・48.2歳(長手地区定員6名)が最も若く、最年長はBホーム59・6歳(長手地区定員5名)であった。

以前は平均60歳を超えたホームがいくつもあったが、高齢化や身体的な問題で退去をしてしまう方がいて多少年齢が若返った印象はある。

ほとんどの福祉施設を利用する場合、サービス管理責任者と呼ばれる職員がおり、その職員が「個別支援計画」を立てている。その中で7割くらいの方が『健康でいつまでもホームで生活したい』と目標を立てているが途中で他の介護施設等へ移ってしまう方も数名いる。

ご本人の安定した状態を保つため、周りの職員も全力で支援をしているが、何らかの拍子で転倒して骨折、車いす利用となってしまうこともあり、65歳を待たずに障がい者併用介護施設へ転居となる。

事業所内の会議で、“アルカディアで高齢化にも対応できる職員・支援体制を整え、身体的な問題にも対応できるグループホームを作ることが、今後は必要ではないか”と議論したこともあったが、すぐに取り掛かれるほど簡単なことではなかった。

高齢化対策はどこでも最重要課題である。本人を取り巻く制度や環境、施設設備を整えることも重要だが、福祉の中で“本人主体の支援”を忘れてはいけない。『健康でいつまでもホームで生活する』ためにサービス管理責任者、生活支援員、世話人それぞれの立場でも、高齢化に対する必要な支援について考えていくことが重要だと改めて思う。(記：グループホーム事業所 新井)

高齢化について

高齢への不安は、漠然だがある。身体的な対策も考え散歩もしているが、高齢への不安を考え出したのは最近になって「年をとったなあ」と思ったから。テレビでは色々な問題が報じられているけれど福祉サービスもそうだが、高齢化問題を教育の場で聞いていたら今の状況とは違う可能性があったのかもしれない。

これからの状況を良くしていくためには、事前の情報や準備が大切だと感じているが、多くの方(自分も含めて)は高齢化については「漠然としている」のが現状ではないのか?!

(50代男性 福祉サービス利用中)

地域活動支援センターふらっとでは、利用に関して年齢は関係ないですが、来所にあたって今までは自力で来ていた方も体力面などの問題で来れなくなっている現状もあります。また、2025年には65歳以上の方の推計が増えていくことがわかり、私たちもその現状について新たな取り組みも考えていかなければならないと思います。単身生活を送る障がい者の場合、関わっている機関があれば高齢になった時に相談や訪問もできますが、福祉サービスを定期的に利用されていない方は、本人たちも不調時にどこへSOSを出せばいいのかかわからないこともあります。障がい福祉サービスではどこにどういった方がお住まいかといったネットワークの構築が十分のため、突然のSOSに対して支援を提供することが非常に困難となります。

今後はそういった実態を踏まえ、住まい・医療・地域・介護・予防・生活支援が一体的になっている、地域包括ケアシステムが利用者の今後に関して上手く機能できないか地域としても考えていかなければならないと思います。職員も「漠然」と高齢化を捉えてしまっている部分もある為、支援する側の立場として「漠然」とした不安も一緒に解決していく必要があると感じます。

(記：太田市地域活動支援センターふらっと 齋藤)

元気屋について インタビュー!!

働く利用者さん

元気屋は、休みがちな時もあったが、働いていると色々勉強になることもあって、自分も良かったと思えました。(Aさん)

元気屋に働いて、人とのふれあいができるよくなりました。病気と戦いながらの仕事は、なかなかうまく働けない時もあるけれど、元気屋に来た時は一生懸命働きたいです。笑顔も忘れずに、頑張っていこうと思います。(Bさん)

人と出会うのが楽しみです。人に声をかけるのが楽しみになりました。(Cさん)

ボランティアさん

元気屋さんに来るようになって、今までまるで接点のなかった人たちと一緒に仕事ができ、ふれあいも生まれて、私の張り合いもなっています。少しでも長く元気屋さんが続きますように、微力ながらよろしくお願ひします。(黒澤さん)

常連客の方々

食べる物がおいしい!! カレーは量がちょうどいい。次はうどんが、おいしい。散歩がてらに寄れてちょうどいい。(Dさん)

元気屋はヘルシー料理。このままで十分。(Eさん)



いやしの空間 元気屋のランチ
太田市平町の大通り入口に 昨年七月に
開店したお昼だけの食事処「元気屋」
元気屋の屋号が珍らしく、どんな店だろうかと
興味を誘った。
と興味が湧いた。
私の店のすぐそばというところもあり早速そへ
足を運んだ。以前の店としてやへも度々食事
に出向いていたので、気楽にランチの席
に腰を据えた。曜日によってメニューも変わる
お昼だけの営業で、しかも食事の種類も、
値段は1コインで向に合う格好で果して、お
味は? ボリュームは? その日はカレーで
三点のおかずが付いて充分おいしく満足して
いた。けれど、
社会福祉事業の一環として始めたという、
だから儲けや利益は二の次という、
店内では野菜を安価で販売している。
素人はおりのスタッフで勝手にやっていける
心配はなかったようである。
しかし、店の雰囲気が良い。そこにゆら

スタッフの元気が笑顔と挨拶が気持ちよい、
また来ようと思はファンになった。
いらっしやいませ、お待ちせしました。ごゆ
っくりどうぞ、ありがとうございます。たと
月並み挨拶はどきどき同じだが心のこもった暖
かさが感じられ、一所懸命さが伝わってくる。
宣伝板で始めた為、最初の1ヶ月位は客数
も少なく、これからどうなるか不安もあったよ
うだ、折いい年を迎えて、徐々に客も増えて
時には午後一時を待たないうちに異かなく
なってきた状態もあるという。
これから来長く続けて貰い、町内の人気も
として、店の名前通り、町の元気に一役買っ
ていたければと思う。

元気屋職員

ここまでやってこれたのは、メンバーさん、ボランティアさん、地域の皆様が応援に来てくださったおかげです。みんなの力が1つになって作り上げた半年です。感謝でいっぱいです。

元気は元気屋!! 皆に会えてよかったなと元気が出る元気屋でありたいと思います。野菜も販売しています!

1周年記念も、皆様のご来店をお待ちしています。(田中)

地元の電気屋 松下さん



常連客のインタビューという事で声が掛かり、元気屋はどんな場所なのかを書いて頂きました!

元気屋に来る皆様は、多くの事に理解がある方々ばかりで、壁を作る様な事もなく、自由気ままに来店し、のんびりしています。今後も、居心地のいい店になる様にしていきたいです。(糸井)